

令和元年 12 月 11 日開催 小平市長期総合計画基本構想特別委員会要旨

※審議会の検討用にまとめたものです。正式な会議録は、小平市議会ホームページから閲覧できます。

開催日時	令和元年 12 月 11 日（水）午前 9 時から午前 10 時 53 分
開催場所	第一委員会室
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ・委員 12 名 松岡あつし委員長 橋本久雄副委員長 伊藤央委員 川里富美委員 さとう悦子委員 竹井ようこ委員 橋本孝二委員 福室英俊委員 細谷正委員 水口かずえ委員 山田大輔委員 幸田昌之委員 ・事務局 3 名 企画政策部長 企画政策部総合計画担当課長 企画政策部政策課長補佐兼総合計画担当係長
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> 資料 1 (仮称) 小平市第四次長期総合計画 骨子案の概略 (案) 資料 2 (仮称) 小平市第四次長期総合計画 基本的な理念の検討 資料 3 (仮称) 小平市第四次長期総合計画 12 年後にめざすまちの姿 (将来像) の検討 資料 4 東京 26 市 総合計画の概要一覧 資料 5 (仮称) 小平市第四次長期総合計画 基本的な取組の方向性の検討 資料 6 取組の方向性の検討に向けた論点整理 資料 7 (仮称) 小平市第四次長期総合計画策定に係る全体スケジュールの概要 資料 8 (仮称) 小平市第四次長期総合計画策定に向けた市民参加の取組 資料 9 第 3 回小平市長期総合計画基本構想審議会 検討用シートの取りまとめ

《主な質問項目等》

- ・庁内策定検討委員会の構成について。
- ・将来像を決めていく流れについて。
- ・財政基盤の考え方について。
- ・子どもの情操教育について。
- ・文化財をどのように保護、発展させていくのか。
- ・ひとづくり、くらしづくり、まちづくりの分野のわけ方、コンセプトについて。
- ・3つの基本目標と持続可能な行財政運営のどちらを優先するのか。
- ・多摩 26 市の総合計画で参考にした点について。
- ・全ての分野を網羅しながら、どのように特徴を出していくのか。
- ・市民の声をどのように反映するのか。
- ・第三次長期総合計画と連動する個別計画等をどういった形で引き継ぐのか。
- ・市制施行 100 周年（2062 年）についての意見交換は行っているのか。
- ・SDGs を長期総合計画にどのように反映をさせるのか。

《主な意見・提案等》

- ・ひとづくりは広い視点、視野で見てもらいたい。
- ・上位にある理念を必ず頭の中に入れながら検討する必要がある。

- ・男女共同参画は、地域共生社会の中にも入る内容である。
- ・将来像を大事に考えたい。
- ・持続可能な行財政運営が非常に大事である。
- ・まずはひとづくりが大事である。人生 100 年時代を見据え、全体の骨格とカラーを前面に打ち出し、市民にしっかりと伝えてほしい。
- ・「あれか、これか」とメリハリをつけた行政を推進するという意見に共感する。しかしながら、小平市が 12 年後どういう市になっているのかが余り見えてこない。多摩 26 市で埋没して、選ばれない市になるのではと非常に危惧している。
- ・教育という柱をもっと小平市の特色にできないか。
- ・大学があり続けるまちであるために、様々な行政施策を関連づけてほしい。
- ・基本目標の考え方は、一人ひとりの「人」があって、人を支えあう「くらし」があって、それらを包含する形で「まち」があるようにイメージした。
- ・市制施行 100 周年（2062 年）を見据えた通過点として、第四次長期総合計画の 12 年が一番大きな転換期である。
- ・市民の意見にしっかりと応えていくことが必要。
- ・多摩 26 市の総合計画を分析し、参考にできるところは参考にしてもらいたい。
- ・庁内検討においては、将来のまちづくりにおいて責任を持つという視点でも若い職員の参加が必要。
- ・東京障害者職業能力開発校や東京都立小平特別支援学校も含め、市内の教育関連施設と有機的に連携してほしい。
- ・自治基本条例を全面的に展開してほしい。
- ・大規模の都市計画事業を同時期に実施するのは財政面において負担が大きいのではないか。
- ・居場所を計画的につくっていく必要がある。
- ・人口推計から読み取れることは多くある。

令和2年1月24日開催 小平市長期総合計画基本構想特別委員会要旨

※審議会の検討用にまとめたものです。正式な会議録は、小平市議会ホームページから閲覧できます。

開催日時	令和2年1月24日（水）午前9時から午前11時45分
開催場所	第一委員会室
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ・委員12名 松岡あつし委員長 橋本久雄副委員長 川里富美委員 さとう悦子委員 佐藤徹委員 竹井ようこ委員 橋本孝二委員 福室英俊委員 細谷正委員 水口かずえ委員 山田大輔委員 幸田昌之委員 ・事務局3名 企画政策部長 企画政策部総合計画担当課長 企画政策部政策課長補佐兼総合計画担当係長
配付資料	<p>資料1 (仮称) 小平市第四次長期総合計画基本構想の答申に向けた今後の審議会の進め方</p> <p>資料2① (仮称) 小平市第四次長期総合計画 骨子案</p> <p>資料2② (仮称) 小平市第四次長期総合計画 骨子案 (別紙)「目指す将来像」</p> <p>資料2③ (仮称) 小平市第四次長期総合計画 骨子案について</p> <p>資料2④骨子案に対する意見募集に係る実施予定事項について</p> <p>資料3 (仮称) 小平市第四次長期総合計画の取組の方向性と連動する個別計画等</p> <p>資料4①3つの基本目標を達成するための持続可能な行財政運営</p> <p>資料4②「持続可能な行財政運営」検討の背景等</p> <p>資料5 (仮称) 小平市第四次長期総合計画基本構想審議会スケジュール(案)</p> <p>資料6 第2回(令和元年9月26日開催) 小平市長期総合計画基本構想特別委員会要旨</p>

《主な質問項目等》

- ・重点プロジェクトについて。
- ・骨子案に対する意見募集の周知及び意見提出方法について。
- ・地域懇談会の実施方法について。
- ・企業との意見交換について。
- ・骨子案に対する多様な意見のいかし方について。
- ・持続可能な行財政運営を進めていくうえでの多様な主体の想定は。
- ・5Gを進めるにあたっての体制は。
- ・3つの基本目標と横断的に下支えする持続可能な行財政運営の関係について。
- ・財政基盤の考え方について。
- ・基本目標や方針の表現について。
- ・基本理念の「わたしたちは」は誰を指すのか。
- ・まち・ひと・しごと創生総合戦略と行財政再構築プランの一体化後のボリュームについて。
- ・財政状況が悪化する中で、これだけは譲れないというものをどのようにまとめていくのか。
- ・企画部門と予算編成部門が同じ部に編成されている中、どのようなチェック機能が働くのか。
- ・基本目標Ⅲの方針1「水やみどりを保全・創出し、環境に優しい循環型社会を形成する」とあり、緑の創出のイメージは。

- ・『未来の東京』戦略ビジョン」が東京都から公表されたが、小平市ではどのように影響を受け、どのようにいかされるのか。
- ・これまで取り組んできた行財政改革の財政効果について。
- ・連動する個別計画について。
- ・基本目標Ⅰの「ひとが育ち、学び、新たな価値を創造するまち」の「新たな価値」とは何か。

《主な意見・提案等》

- ・骨子案に対する意見を提出しやすい方法の検討を。
- ・地域懇談会では、市民の皆さんがわかりやすい資料の提示を。
- ・第四次長期総合計画の期間は東京都との連携及び広域連携が重要である。
- ・鉄道立体化や踏切の解消がなかなか進んでいない。関係機関への働きかけを継続しているが、市としても明確に進めてほしい。
- ・女性活躍、働ける環境、起業しやすくなる環境の整備に関して市民目線で捉えてほしい。
- ・市民サービスを担保した上で、行財政運営のスリム化を図るべき。
- ・基本理念の「私たちは」を自分のこととして捉えられるような周知が必要。
- ・基本目標Ⅰの方針1「子どもの育ちと自立を支援する」は「応援する」という表現もあるのでは。
- ・SDGsと重なる期間で、世界も国も、最も大切な取組期間として位置づけられている。
- ・安全安心というキーワードははずせない。
- ・議会の声も、審議会の中でしっかりいかしてほしい。
- ・市制施行100周年を見据え、バックキャストでスタートさせる大切な将来ビジョンになる。
- ・社会を取り巻く状況が、経済的にも人口構成的にも、テクノロジーの部分でも転換期にいるということを共有するべき。
- ・未来の計画を描く時に行財政運営がブレーキの効果が出てしまうようなこともあり、難しい舵取りであると思うが、各事業に対し横断的に持続可能な行財政運営を位置づけていることは良い。
- ・人権や平和について盛り込むべき。
- ・行財政運営については、小平市の独自性を貫いて欲しい。
- ・子どもや若者の権利を推進することが具体化できるような方向性に。
- ・基本構想の下に位置づける中期実行プランについては、外部に関与していただく形が取れるよう努力して欲しい。
- ・多文化共生は文言だけではなく、取組の方向性もしっかりと示すべき。
- ・高齢化社会に進む中で、高齢者施策が拡充するのは当然の結果であるが、そういう社会であっても、子育て、若者、現役世代の政策を意識的に入れていく必要がある。子どもが元気なまちは、高齢者も元気である。
- ・観光の面で「プチ田舎」を使っているが、長期総合計画では使う必要はない。
- ・骨子案に対する意見交換は、大学や企業等以外に学童関係やPTA、自治会でも意見交換をやった方がいいのでは。子どもたちが何を思っているのか絶対に聞いたほうがいい。
- ・人口が減少していく中で、東京都の事業とはいえ都市計画道路を従前通りにつくる必要があるのか。
- ・空き家の利活用を進めるべき。
- ・気候変動に関しては世界的な危機で、この10年が勝負だと言われている。一人ひとりが取り組んでいく必要があることをしっかりと示して欲しい。